



共生社会システム学会ニュースレター The Association for Kyosei Studies News letter

2017年4月24日発行 第16号

目 次

1. 2017年度大会（名古屋学院大学）の開催について	1
2. 2017年度大会個別報告とセッションの募集について	1
3. 第1回「運営委員会」の開催と議事内容の報告	3
4. 『共生社会システム研究』編集委員会からの報告	5
5. 運営委員会事務局だより	6
【添付】大会個別報告要旨とセッション趣意書	7

1. 2017年度大会（名古屋学院大学）の開催について

2017年度大会（名古屋学院大学）を以下の要領で開催いたします。

- ・日程：9月2日（土）・3日（日）
- ・会場：名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎（希館2・3階）
- ・大会テーマ：『多文化共生時代の可能性と未来』（仮）
- ・大会実行委員長：木村 光伸

詳細なスケジュールについては、現在、大会実行委員会で検討中ですが、各日の主な予定は以下のとおりです。

9月2日（土）：13：30開始 基調講演、シンポジウム、懇親会

シンポジウム：「多文化社会をどのように生きるかー地域で進める持続可能な開発SDGsー」
（仮） 座長/司会：（主）木村光伸 （副）榎平龍宏

9月3日（日）：10：00開始 個別報告、理事会、総会、セッション（自由企画ワークショップ）

2. 2017年度大会個別報告とセッションの募集について

2017年度大会（名古屋学院大学）での個別報告とセッション（自由企画ワークショップ）を募集いたします。希望者は以下の要領に従って、学会運営委員会事務局までお申し込み下さい。

《個別報告》

- （1）筆頭報告者は報告申込時に本学会員であること。会員でない方は至急入会手続きを行ってください。

(2) 個別報告の申込みに当たっては、**a)個別報告申請書**と**b)報告要旨**の両方をご提出下さい。

a) 個別報告申請書は、A4の用紙1枚に以下のことを記載して下さい。

- ①氏名：
- ②報告表題：
- ③分野：
- ④所属機関：
- ⑤連絡先住所：
- ⑥連絡先電話番号：
- ⑦Fax番号（もしあれば）：
- ⑧e-mailアドレス（もしあれば）：

*分野はプログラム編成時の参考とさせていただきます。

b) 報告要旨は、様式見本（本ニュースレターの7ページ）を参考にして、A4用紙1枚をご提出下さい。

*報告要旨は、学会報告を念頭に、可能な範囲で、仮説（問題設定）、研究方法、結論をきちんと書き分けてください。

(3) 報告時間（予定）は報告20分、質疑応答10分です。

（報告者の人数によって増減する可能性もあります。）

(4) 提出方法：

学会運営委員会事務局まで、**a)個別報告申請書**と**b)報告要旨**をEメールに添付してお送りください。送り先メールアドレスは、inamura@afsp.jpです。

CD-Rなどの電子媒体に原稿ファイルを入れていただき、ご郵送いただいても結構です。その場合の宛先は下記の通りです。

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-3-3 木下ビル4F 農林統計出版株式会社内
「共生社会システム学会」運営委員会事務局 宛
*なお封筒の表面に「個別報告申込」と朱書きして下さい。）

(5) 提出締切日：2017年6月30日（金）（消印有効）

《セッション（自由企画ワークショップ）》

(1) 参加資格

- 企画代表者は申込時に本学会員であること。会員でない方は至急入会手続きを行ってください。
- 企画代表者以外の登壇者の会員資格は問いませんが、登壇される非会員の方は、是非この機会にご入会ください。

(2) テーマ・形式

- セッションのテーマは「共生」または「共生社会」のあり方や展望に係るものとします。
- シンポジウムやパネルディスカッション、対談、ワークショップ等、開催形式は自由です。
- 万一、内容が学会の設立趣旨にふさわしくないと判断される場合、開催をお断りさせていただきます。ご了承ください。

(3) 会場

- 1企画につき1教室（40人程度）となります。個人机ですので、会場内の机・椅子の配置換えは可能です。
- プロジェクターとスクリーン、パソコン、マイク、ベルは会場に用意します。

(4) 時間

- 大会2日目の9月3日(日)、午後13時以降を予定しています。
- 1企画あたり90～120分とします。応募状況によっては90分を下限として、事前に短縮をお願いすることがあります。
- 企画代表者または登壇者が個別報告にも応募している場合、時間が重ならないよう調整します。

(5) 成果の公表

- 大会後、開催報告(査読なし)を学会誌『共生社会システム研究』にご執筆いただきます。分量、形式、提出期日等については別途お知らせいたします。
- 上記の開催報告とは別に、セッションの成果を「論文」等として積極的にご投稿ください。多重投稿にならないければ、1企画から複数の投稿があっても構いません。

(6) 申込み

申込みに当たっては、a)セッション開催申請書とb)企画趣旨の両方をご提出ください。

a)セッション開催申請書は、A4用紙1枚に以下のことを記載してください。

- ①企画代表者の氏名：
- ②所属機関：
- ③企画テーマ：
- ④開催形式：
- ⑤希望時間枠(90～120分)：
- ⑥連絡先住所：
- ⑦連絡先電話番号：
- ⑧E-Mailアドレス：

b)企画趣旨は、学会ホームページに掲載の様式(※本ニュースレターの8ページ)をご利用の上、A4用紙1枚をご提出ください。

(7) 提出方法

学会運営委員会事務局まで、a)セッション開催申請書とb)企画趣旨をEメールに添付してお送りください。送付先メールアドレスは、inamura@afsp.jpです。

CD-Rなどの電子媒体に原稿ファイルを入れていただき、ご郵送いただいても結構です。その場合の宛先は下記の通りです。

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-3-3 木下ビル4F 農林統計出版株式会社内
「共生社会システム学会」運営委員会事務局 宛
*なお封筒の表面に「個別報告申込」と朱書きして下さい。)

セッションは、2時間程度、形式については主宰者に一任します。テーマに基づいて2～4人が話題提供する形式を想定しています。話題提供者は会員・非会員を問いません。特に若手を中心とした会員(ただし若手に限定されるものではありません)の積極的な企画応募を期待しております。

(8) 提出締切日： 2017年6月30日(金) (消印有効)

3. 第1回「運営委員会」の開催と議事内容の報告

- ・日時：2017年3月26日(日) 14:00～16:50
- ・場所：東京農工大学府中キャンパス 2号館3階320
- ・出席者：尾関、木村、古沢、岡野、桑原、稲村、千年

・議題：

(1) 運営委員の紹介

(2) 前回議事メモの確認

(3) 名古屋学院大学大会（本年9月2・3日）について

(4) 次回大会（2018年度）開催候補校の検討

審議の結果、日本獣医生命科学大学を来年開催の大会校の第一候補とした。桑原会員に、来年の開催について検討頂くこととなった。日程は7～9月の週末、日本獣医生命科学大学で開催となった場合、必要に応じ、大会準備・実施において農工大が支援する。

(5) 大会個別報告での二重報告ならび学会誌への二重投稿について

博士論文の研究成果の一部の報告・投稿について審議した結果、以下のとおりとなった。

- ・大会開催日前に博士論文を学術書として出版した場合でも、報告予定内容が学会や雑誌等で未発表であれば、博士論文の一部の個別報告を認める。
- ・上記の個別報告をもとに執筆した論文を『共生社会システム研究』に投稿する場合は、博士論文を含む既往研究との関係性、具体的には既往研究との差異を明確にし、投稿論文の新規性/独自性を当該論文の本文中に明記したうえで執筆することを条件とする。ただし、実際に論文を読まない限り、当該論文の新規性/独自性が適切であるかを判断することが難しいため、投稿後、査読者ならびに編集委員会がその適切さを判断する。

(6) 『共生社会システム研究』編集委員会からの報告

(7) 学会顧問の資格条件

検討の結果、申し合わせ（内規）のみではなく、会則の改正が必要となることが明らかになった。会則改正は総会での承認事項であるため、今後、運営委員会で検討、確定した顧問に関する会則の改正案を、本年9月3日開催の理事会、総会において諮るという手順を進めることとなった。

(8) 学会基盤強化のための検討事項の整理

現時点での区分別学会員数、2016年度の入退会数等、さらには日本学術会議事務局協力学術研究団体の要件（個人会員が100人以上、かつ研究者の割合が半数以上）であることを確認したうえで、大学院修了後、学生会員のまま3年以上、会費を滞納している者の取り扱いについて審議した。審議の結果、会員数が200名を維持することを前提に、長期間（5年以上）滞納し、連絡先が不明となっている学生会員の除名を検討していくこととなった。最終的に除名は理事会の承認事項であるため、まずは、該当する学生会員をリストアップし、運営委員会で確認した後、理事会（9月3日開催）で除名を諮る措置をとることとなった。

また、大学院修了後、学生会員のみで学会活動を行っている若手会員の取り扱いについては、今後、新たな会員区分の設定を検討していくこととなった。

(9) 文科省の人文社会科学系学部の見直しに対する本学会の声明

審議の結果、本事項に限らず、軍事研究予算を含め、本学会の声明を出すべきであるという意見が出た。次回の総会（9月3日開催）での声明の決議を目標にして、今後、準備していくこととなった。

(10) その他

尾関会長の任期は1年で、総会（9月3日開催）後に会長が交代すること、新会長は現副会長3名のうちから選出することを原則とすること、という既に決定されている事項について確認した。本事項については、次回の運営委員会で継続審議することとなった。

(11) 次回委員会開催日時

日時：7月2日（日）14：00～17：00

場所：東京農工大学府中キャンパス 2号館3階320

4. 『共生社会システム研究』編集委員会からの報告

(1) 『共生社会システム研究』第11巻について

以下の内容を掲載し、夏に刊行の予定です。ご期待ください。

- ・記念講演：共生社会と人権—資本主義と環境を考える（宮本憲一氏）
- ・共生社会システム学会設立10周年記念シンポジウム：
共生社会をつくる—時代の閉塞を超えて—
（座長：尾関会長・矢口会員、報告：亀山会員・古沢会員・岡野会員）
- ・企画セッション報告
（企画代表者：桑原会員・澤会員・古沢会員・増田会員・岡野会員）
- ・特別寄稿論文：現代日本における「共生」哲学概念の解析—マルクス哲学の現代的理解から—（王 青氏）
- ・投稿論文：（投稿は全部で11本あり、現在審査を進めています。）
- ・解題：竹村牧男『ブッディスト・エコロジー—共生・環境・いのちの思想』ノンブル社（亀山会員）
- ・書評：
尾関周二／環境思想・教育研究会編『「環境を守る」とはどういうことか』（岩波ブックレット） 書評者：島崎氏（一橋大学、元会員）
古沢広祐責任編集『共存学4—多文化世界の可能性』（弘文堂） 書評者：岡野会員
尾関周二・矢口芳生監修『共生社会 I・II』（農林統計出版） 書評者：第 I 巻：鈴木敏正氏（北海道大学）、第 II 巻：岡田知弘氏（京都大学）
西川潤ほか編著
『共生主義宣言～経済成長なき時代をどう生きるか』（コモンズ） 書評者：布施会員

(2) 『共生社会システム研究』第12巻について

『共生社会システム研究』第12巻への投稿原稿を募集しますので、ふるってご投稿下さい。締切日は10月2日（月）です。今年から、締切日が一ヶ月早くなりますのでご注意下さい。締切日を超えた投稿については、原則、次巻（第13巻）掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おき下さい。

また、第12巻より、当学会ウェブサイトに掲載された原稿及び投稿票の書式見本ファイルをダウンロードして使用していただきます。また、紙媒体と同時に電子データをご送付いただきます。このことも含め、投稿規程、執筆要領をよく読んで原稿を作成して下さい。

原稿の送り先：

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部電気電子工学科

『共生社会システム研究』編集委員長 岡野一郎 E-mail: i-okano@cc.tuat.ac.jp

5. 運営委員会事務局だより

本文中にも記しましたとおり、2017年度大会が9月2日（土）・3日（日）に名古屋学院大学にて開催されます。中部地区における初の開催になります。『多文化共生時代の可能性と未来』（仮）という大会テーマのもと、現在、木村実行委員長を中心に関係者が基調報告やシンポジウムの詳細を鋭意検討しています。大会プログラムの詳細につきましては、個別報告ならびにセッション（自由企画ワークショップ）の確定次第、通知する予定です。

皆様にはおかれましては、2017年度大会に奮ってご参加頂きたく、9月2日（土）・3日（日）の両日は「共生社会システム学会」名古屋学院大学大会に参加と、ご自身のスケジュール表にご記載頂ければ幸いです。

さる3月26日（日）に第1回運営委員会が開催されました。主な議題は、2017年度大会に関するものでしたが、ほかに学会顧問の資格条件、学会基盤強化のための検討事項、文科省の人文社会科学系学部の見直しに対する本学会の声明、等について、活発に議論されました。その根底には、学会設立10年を機に次の10年における学会発展に向けての方針ならびに取組みを定めなければならないという共通の認識が運営委員にあります。本学会の意義や活動を次世代に継承していくためには、地道な研究活動や会員拡大の努力はもちろんのこと、主要会員層の高齢化、幽霊会員の増大などの内在する課題にも目を向け改善を図っていく必要があると考えます。このためには、会員皆様のご理解とご協力が不可欠になります。引き続き、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

昨今、対外的にはトランプ政権の誕生、北朝鮮やシリア等の国際情勢の悪化、国内的には森友問題にみる安倍政権の迷走、その一方で民進党などの野党の体たらく、等々、社会情勢が益々混迷化している状況にあります。こうしたなか、本学会の理念と学術的特性の社会的意義が高まっていると感じます。本学会の趣旨にも記されているとおり、本学会は、発足当初より、学術的な追求とともに、市民との連携を視野に入れた実践的な追及にも力点をおいております。皆様には、この点にもご留意頂き、共生社会システムに関する研究活動の領域をより広範に据え、様々な分野の方々との連携・交流を発展させて頂ければと存じます。そうした活動が、結果的に本学会の発展につながるものと期待しております。

皆様からのニュースレター原稿を募集しております。投稿は榎本(hirolaw@cc.tuat.ac.jp)までお送りください。ただし一つの原稿は最大でもページの半分に収まる程度の方量でお願いいたします。

会費納入のお願い

2017年度会費の納入をお願いいたします。会費は、一般会員6,000円、学生会員3,000円、賛助会員20,000円となっております。よろしくようお願い申し上げます。2016年度以前の会費を未納の方は、未納分も含めて納入をお願いいたします。

共生社会システム学会ニュースレター 第16号 2017年4月24日発行
編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局
連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8
東京農工大学農学研究院 千年篤研究室 気付
TEL: 042-367-5687 E-Mail: chitose@cc.tuat.ac.jp

【添付】

大会個別報告要旨とセッション趣意書

(個別報告要旨様式：A4判 1枚)

フォント：和文は明朝体、欧文・数字はCentury

左マージン 23mm

天マージン 28mm

右マージン 23mm

共生社会とは何か

ー 共生社会へのみちすじ

1行あき

タイトルは14ポイント、
サブタイトルは10.5ポイント。
中央揃え。

府中花子・国分寺太郎*

(共生大学・*共生研究所)

1行あき

著者名は12ポイント、所属は10
.5ポイント。中央揃え。

(本文開始)

本文は10.5ポイント、1行全角46文字、行送り15ポイント、左右揃え

地マージン 28mm

2017年度 セッション（自由企画ワークショップ）企画趣旨

1. 企画代表者 氏名・所属

--

2. テーマ

--

3. 趣旨（200～300字程度）

--

4. プログラム

（記入例）

【25分】 共生 太郎（A大学）報告「共生社会とは何か」

【25分】 共生 花子（B研究所）報告「共生社会の実現に向けて」

【10分】 共生 次郎（C協会）報告に対するコメント

【45分】 パネルディスカッション 座長：共生 三郎（D大学）

【所要時間 1時間45分】

※時間配分と所要時間が明確にわかるよう記載してください。